横浜市立大学学術情報センター

貴重書
月替わり展覧会リーフレット
（162）

2025年３月の作品は

『大日本性気録　完』（だいにほんしょうきろく　かん）

『大日本性気録　完』から読み解く四国の人々
～現代の県民性と比較して～

私が『大日本性気録　完』に惹かれた理由は「気性」について紹介しているという点である。一般的に、地方について紹介する書物は地図や名所や名物、歴史について紹介するものがほとんどである。そんな中で、その地域の「人々」に焦点を当てて述べているという点でとても面白そうだと感じた。また、現代でいうところの関西人・関東人の特徴などといったエンタメ的要素が含まれている点で、現代人と好むものはあまり変わらないのだなと親近感を感じ、この書物を読んでみたいと思った。『大日本性記録　完』で述べられた記述は地域によって褒めちぎるような記述から辛辣なものまで様々であった。今回はそれらの記述の中から私の故郷である徳島県を含めた四国４県について調査した。記述によると四国の人々は全体的には気性はよく、かなり褒められた記述が多かった。しかしその中でも少しずつ異なる記述や短所と捉えられる記述もあったため、本当にそうなのか『大日本性気録　完』の記述と現代で語られるそれぞれの県民性の記述と比較をすることでその県の性格を推測してみる。

『大日本性気録』（１冊）
時代：江戸時代
作者：不明
版元：有造館
縦 18.3cm × 横 12.2cm

この作品は、江戸時代に書かれた、『大日本性気録』というものである。五幾七道別に気候風土や風俗を略述した書である。また、この書にはあらゆる地域の人々の気性がその地域の外の人間から見た視点で記録されている。それぞれ具体的に記述されており、現在に受け継がれる特性も記述されている。次の段落では四国４県の原文の記述を紹介する。

（１）徳島（阿波）

徳島（阿波）の風俗はとても気が健やかで賢いが、それ故に変動ある道を選ぶ特徴がある。人をたぶらかし強盗をするようなことはない。そして、もっとも意地が強い。勝浦・那賀・板野・阿波・美馬郡は少し気が弱いのだろうか。当国は海から東に向かうにつれて山が深くなる。南海であるため、気も暖かい。東方の上品な気を受けるため、気高く教養があるようである。

（２）愛媛（伊予）

愛媛は大方半分に分かれている。東側は気質やわらかく、真心は強い。西側は気が強く真心は少なく見受けられる。昔から、この国は海賊が多く往来する船はそれらに悩まされてきたと聞く。今もなおそれは多い。関東の盗賊と同じ手法である。武士の風俗は一段と強いが、手段を吟味しないため危ないことが多き。後世でも変わらないだろう。

（３）土佐（高知）

当国の風俗は極めて誠実である。気質は素直だ。土佐・長岡・吾川の地域は特にそのようである。動物までもがそうである。猿も素直で芸のしつけもよくできている。ただし、言葉は卑しい。当国は大国なので、浜は百里あり山も多い。

（4）香川（讃岐）

当国の風俗は、気質弱く、悪事に働く知恵を持っている人が多い。特に諂（へつら）いが多く、立身することがステータスである。大内・寒川・三木・野山田などはことさらにそのようである。

展示のみどころ
～温厚な四国の人々～

『大日本性記録　完』から江戸時代の人間から見た当時の四国それぞれの人々の性格について知ることができた。そこで、今回の展示の見どころとして、現代のそれぞれの県民性や歴史からみた県民性と比較して変化があったのかどうか比較してみたい。三浦竜氏と日本史倶楽部による文献によると、徳島県民は陽気な倹約家だという。元々温暖な気候であることから陽気で開放的な気質を持っていたが、倹約家として知られる尾張国からやってきた蜂須賀公が阿波の殿様となってから徳島県民も勤勉・倹約家が増えていった。その過程で商人も出てきて、徳島県人は「へらこい」、抜け目がないと言われるようになった、と言われている。

次に愛媛県について。愛媛県も徳島県同様、温暖な気候、かつ瀬戸内海に面した穏やかな気候からのんびり、マイペースだと言われる。争いごとを嫌い、ほどほどを望む傾向にある。また、趣味や娯楽に費やす時間も長く、喧騒の中働いたりする中でも、自分を休ませる時間を十分に持つようなおっとりした県民性であることが伺える。しかし、芯の強い部分も持っているのが愛媛県民だという。昔から、愛媛県は勉強に力を入れてきた。それは文学家が多いことや有名な神学校が多いことからも読み解くことができる。穏やかな中にも努力を忘れない芯の強さがを持つのが愛媛県民である。

３つ目は高知県である。高知県民の特徴は、のんびりと力強さである。温暖な気候からのんびりしているが昔から男女とも意思が強く、多くの政治家や活動家を輩出している。女性は「はちきん」と呼ばれ、その意思の固さとか行動力から現代でも女性の活躍が活発な県として知られており、平成 10 年に初めて行われた「女性の働きやすさ」調査では第１位が高知県だった。また、お酒に強く、人口が少ない県であるにもかかわらず、お酒の消費量が東京都に続いて２位であることがその勢いの良さを表しているとも言える。

四国４県の最後は香川県である。香川県民の特徴は人付き合いが上手いということである。温暖な気候から争いごとを嫌うが故に人懐っこい県民性になっていったという。そして、香川県民を表す言葉として、もうひとつ「忍耐力に欠ける」というのがある。かなりひどい言いようだが、何か特別な理由があるというわけではないらしい。

記述を読んでみて、全体的に四国は温暖な気候から温厚な性格をもった人々が多いということが分かった。『大日本性気録　完』と比較すると、徳島県では気が良く賢いという点で江戸時代の本書と、現代に書かれた本の記述が同じである。気が弱いことについての記述は現代ではみられなかった。愛媛県は気質が穏やかであることは同じだが、武士や盗賊などの文化がない現代では、当時の気の強さや猪突猛進は現代では薄れていき、その熱意は勉学や趣味に向いていると考える。高知県は気が良い点では変化はないようだが、種類が少し変わったようだ。土佐出身の偉人が多いことから激動の時代の中で威勢の良さと固い意思が高知県民に身についたのだと考える。香川県は諂いが多いという記述と人懐っこいという記述から、人付き合いが上手いことは昔も現代も変わらないということがわかる。また、四国の中で唯一ネガティブな面が挙げられているという点でも変わらないが、明確な証拠や歴史的背景は見つけられなかった。比較して、江戸時代から大まかな印象は変わっていないということが読み取れた。四国についての記述を読んでみて、そのほかの地域についても調査してみたいと思った。読者の出身地やゆかりのある地域を思い浮かべながら、現在のその地域の特徴と比べてみるというのもひとつの楽しみ方ではないかと思う。

参考文献

・三浦竜・日本史倶楽部編『「県民性」がわかる！おもしろ歴史雑学―日本全国「お国柄」の謎と不思議』三笠書房、2013 年

・もぐら著『県民性マンガうちのトコでは 2』飛鳥新社、2014 年

あとがき　～貴重資料に触れて～

今回、貴重書の調査の仕方について知ることができた。貴重書には私たちが知らないかつてのことについて最も正確に知ることができる手段の一つであるということが分かったのと同時に、貴重書の管理や取り扱いの難しさを知ることができた。今後も貴重書を利用して学びを深めていきたい。

※コレクションの閲覧は、作品保護のため、展示品を除き申請が必要です。また利用は学術研究目的に限らせていただいております。

※過去の展示はオンラインでも公開中です！

※第 163 回展示は令和７年４月上旬からを予定しています。

令和７年３月４日発行

令和６年度　日本文化論Ｂ受講生 編集

236-0027　横浜市金沢区瀬戸 22-2

横浜市立大学　学術情報センター